

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	令和元年度第2回山陽小野田市健康づくり推進協議会	
日時	令和元年10月31日(木) 14:00~15:40	
場所	スマイルキッズ 2階	
出席者	山陽小野田市連合女性会 井上幸子(委員) 山陽小野田医師会 川端章弘(会長) 山口県看護協会小野田支部 小林由加理(委員) 市民代表 塩田賢二(委員) 山口東京理科大学 武田健(委員) 山口宇部農業協同組合 民繁詠児(委員) 市民代表 中川寿恵子(委員) 山陽小野田市食生活改善推進協議会 半矢幸子(副会長) 山陽小野田市社会福祉協議会 藤田寿規(委員) 山口県歯科衛生士会山陽小野田支部 藤本文子(委員) 山口県栄養士会 三井洋子(委員) 厚狭歯科医師会 山崎哲朗(委員) 山陽小野田市ふるさとづくり協議会 山田義隆(委員) 山陽小野田市母子保健推進協議会 吉田由美子(委員) (出席者数 14人)	
欠席者	山陽小野田市老人クラブ連合会 石原克宏(委員) 山陽小野田市小・中学校PTA連合会 岡崎学(委員) 山陽小野田市健康増進計画推進委員会 小柳朋治(委員) 山陽小野田市自治会連合会 千々松正俊(委員) 小野田歯科医師会 平木雄三郎(委員) 山陽小野田薬剤師会 松澤進(委員) (欠席者数 6人)	
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	小林聖子

事務局	福祉部長 兼本裕子 福祉部次長 岩佐清彦 健康増進課長 尾山貴子 補佐兼健康管理係長 銭谷憲典 主査兼健康増進係長 大海弘美 健康増進係長(母子) 古谷直美 健康増進係長(成人) 山本真由実 健康増進係長(食育) 加藤諭香江
会長 事務局 委員	<p>1 部長あいさつ</p> <p>2 辞令交付 一般公募委員1名の退任により一般公募委員の中川寿恵子(なかがわすえこ)さんに辞令を交付。</p> <p>3 議事 (1) 保健事業について ①スマイルエイジングの推進について (事務局からの説明)</p> <p>事前質問とご意見があったと聞いているので、事務局の説明を求める。</p> <p>事前質問内容『スマイルエイジングの推進について目標項目に「健康寿命の延伸」とあるが、具体的にどのような指標を使おうとしているのか。健康寿命をどのように把握するかが大事。定義を明確にした指標となる項目は明記されているか。総合計画に掲げている評価目標の女性84.51歳、男性79.80歳(平成26年度)とあるが、どのように算出したのか。</p> <p>推進体制についてここでは全庁体制のことが謳ってあるが、推進計画のようなものはあるのか。また、「最終的にチャレンジプランを作成する予定」とあるがいつまでに作成するのか。』に対する回答としては、健康寿命の数値は、総合計画で用いている県の数値と、国が公表している数値とがある。県が公表している数値は、要介護2から5の人を不健康な状態とし、それ以外を健康として算出している。国のデータは、県単位のデータはあるが、市町村の数値が出ないので、総合計画では県の算出方法を用いている。これをスマイルエイジングでも用いたいと考えている。</p> <p>また、チャレンジプラン(仮称)は、市民が効果的に目標を達成するために作成しようとしており、現在検討の段階。作成時期については、来年度末の完成を目指している。</p> <p>次に、事前に頂いた御意見として『老人クラブ連合会では、「運動」「交流」の分野の応援、協力の取組を目標としたい。すでに、支援、実施している地域での「脳いきいきクラブ」「いきいき百歳体操」への参加の参加拡大や主催行事「春季グランドゴルフ大会」「山陽小野田地区老連スポーツ大会」「カローグ大会」への一般市民の参加の支援要請をしたい。</p> <p>また、すでに地域での応援支援を行っている各老人クラブのスマイルプランナーへの登録の検討をしたい。』ということであったのでお伝えする。</p> <p>県のデータはわが市のデータであるか。</p>

<p>事務局 委員 事務局 委員</p>	<p>山陽小野田市のデータです。 この時のデータと平均寿命のデータを併記していただきたい。 後程、回答する。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>チャレンジ目標についてだが、知守は健康を守ることだと思うが、体重測定だけでなく、血圧測定はどうか。体重計はほとんどの家庭に普及しているが、血圧計も普及していると思う。減塩に対して認識されており、非常にいいことだと思う。現役の頃、塩分計の配布があった。それにより、塩分の摂り方がよくわかった。そのおかげで、現在、ほとんど調味料を使用しない食生活に慣れ、市販の味噌汁は辛いと感じる。ある程度の習慣が身につけば、濃い味でなく、減塩ができるのではないか。予算的に難しいかもしれないが塩分計の市の補助が必要ではないか。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>全国的にも塩分を減らそうとしている。塩分濃度計になれるという意味でも一家に1台道具があればよいのではないか。市民の健康につながるのであれば、安いものになるのではないか。何か市民の意識を変えるアクションが必要ではないか。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>本来ならば、チャレンジ目標は市民の意見を吸い上げて目標を考えるべきとは思いますが、現時点では職員が課題と感じているものを目標としている。大きく変更はできないが、市民に馴染みやすいと思う表現にしたいと思う。減塩等についても、今後の検討材料になると思うので、ご意見をいただきたい。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>コストのこともあると思うので、意見は今後取り入れていただけたらと考えている。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>今後、この目標の達成状況をどう把握してどのように記録していくのか。 検討していきたい。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>(1) 保健事業について ②健康に関する情報発信（周知）について (事務局からの説明)</p>
<p>会長 事務局</p>	<p>こちらにも事前質問があったと聞いていますので、事務局に説明を求める。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>事前質問の内容は、『健康マイレージについて、「ポイントをためると特典がある」と記載があるが、どのような特典なのか。市独自で健康増進のために役立つグッズやサービスのようなものを考えているのか。 ポイントに加算される項目はどのようなものなのか。だれがどのように検討して決めたのか。また、この取り組みは当面何年くらい継続してどのように評価し、その後、どのようにしようという構想はあるか。計画を書面で示していただきたい。』というものであった。そのことに対する回答としては、健康マイレージ事業は、県の事業の一つで、その中で県内の協力店で利用できる特典カードを配布している。18歳</p>

	<p>未満については、市独自部分になり、市で特典を検討している。事業の計画の書面で示すものはないが、取組の目的は、健康づくりの応援、きっかけづくりとする手法の一つと考えている。何年くらいということではなく、1年ごとに評価をしていき、効果的な事業となるよう継続していききたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>先ほど、事務局から「無関心層への周知方法について」のご意見をいただきたいとの説明があった。本日は、限られた時間で、できるだけ多くの意見をいただきたいと考えている。グループに分かれて意見を交わしていただき、後程全体で意見共有する時間をもうけるという進め方にしたいと考えるが、いかがか。</p>
	<p>(委員承認) (3グループに分かれて討議) (グループごとの意見発表)</p>
<p>委 員</p>	<p>PRチラシを預かるが置いているだけでは減らない。手渡しでのPRが必要。</p>
<p>委 員</p>	<p>無料で、気軽に立ち寄って健康チェックできる「通りすがり健診」のようなことも必要ではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>専門職や行政以外の友人や知人などの口コミの情報が有効なのではないか。</p>
<p>会 長</p>	<p>各職場へ産業医からの啓発が有効ではないか。</p>
	<p>欧米では、検診受診率が70～80%と高い。検診を義務化するような制度を国に求めていくことも必要ではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>大学生は、健康づくりに関するイベントに参加したくても移動が困難。その解決も必要。講義に食生活改善推進協議会会長にもお越しいただき、味噌汁を試食し、減塩についてのお話を聞いた。学生から地域で啓発していけるとよい。このように、大学の教育の中でも改善しないとイケない。</p>
<p>委 員</p>	<p>働き世代においては、チラシのデザインを工夫し、目に留まるようなチラシにする必要がある。健康マイレージについても「これをすればこれがもらえる」といったように具体的に特典をわかりやすく標記し、親子での特典などターゲット世代に魅力ある特典の検討も必要ではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>健康づくりの行動を移すには、グループや仲間などの核となる人材が必要ではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>自治会長に周知し、自治会単位で出前講座を実施し、地域にたくさん出向いてPRすることも必要ではないか。</p>
<p>委 員 委 員</p>	<p>働き世代は休日の参加は難しいのではないか。働き世代が集まるところに出向いてPRを行ったり、企業には保健師もいるので連携したりできるのではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>チラシを見て働き世代が健康フェスタに参加したいと思う内容か。チラシに魅力がないのではないか。アプローチしたい世代の目に留まるようなチラシの作り方が必要。</p>

<p>委員</p>	<p>学校や職場からのアプローチが大切だと思うが、学校で子どもたちに啓発しても親世代に伝わっていないのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>ボランティアではなく、多世代と一緒に作る喜びと楽しみができる とよいのではないか。また、3世代、4世代で参加したら特典がある というような取組や隣近所に声をかけて誘いあえる雰囲気づくりも大切 ではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>その他、全体を通してご意見・ご質問はあるか。 (意見なし) 事務局は、いただいた意見をまとめて活かしていただきたい。 議事(2)について事務局の説明を求める。</p>
<p>事務局 会長</p>	<p>(2) 第10回SOS健康フェスタについて (事務局からの説明) ただ今の説明に関して、質問はないか。 (意見なし) 健康フェスタのチラシを持ち帰るが、みなさんにも配布が完了する ように協力をお願いしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>議事(3) その他 (なし) 宇部健康福祉センター小林課長様に本日の協議会についてオブザー バーとして助言をお願いしたい。</p>
<p>宇部健康福祉 センター</p>	<p>皆さんが意見しやすい、とてもいい雰囲気の会議だった。チャレン ジ目標については、市民も職員も楽しくやる必要がある。親しみやす い言葉になっている。食事分野のみ語尾が他の分野と異なるのが気にな った。</p>
<p>会長</p>	<p>情報の周知について印象に残った発言に、専門職や行政以外の知人 や友人からの口コミの方が有効ではないか。という意見があった。 市民が行う口コミで広げていくことが効果的と感じた。これは、先程 のスマイルエイジングの交流につながるのではないかと感じた。</p>
<p>事務局 委員 司会</p>	<p>それでは、以上で議事の審議がすべて終了したので、進行を事務局 にお返しする。 先程の平均寿命についてですが、2010年のデータで、男性が79.4 歳、女性が86.6歳と把握している。 健康寿命だけでなく他の指標の検討も必要ではないか。 4 その他 (事務局から資料4)11/30(土)山陽小野田市立山口東京理科大学 にて健康で長生きのまちづくりフォーラムについて説明) 閉会した。</p>